

■令和3年度第3回鹿嶋市総合計画審議会 議事録

(質疑)

- 会長：皆様のご意見を受けての対応をご説明いただいた。追加でご意見等あればお願いしたい。
- 事務局：本日欠席されている委員の2名から意見をいただいている。まず、もう少し高齢者のコミュニティ活動の意見を入れておいたほうがよいのではないかとご指摘をいただいている。また、総合計画70, 71頁に関連して、総合戦略15頁のKPI, 指標の設定について、実際には12月に洋上風力発電事業者が国で選定されたが、まだ使用しているわけではないので、事業者が使用してから1と設定すべきではないかというお話をいただいている。現状値は1と記載されているが、0と訂正させていただきたい。
- 会長：最初のご指摘は大事だと思う。デジタル化で情報格差の問題があるが、その解消のためには、高齢者のコミュニティ活動は大事。次のご指摘の総合計画70, 71頁と総合戦略15頁は、まだ始まっていないので0ということで修正をお願いしたい。ご指摘いただいたコミュニティとカーボンニュートラルの描写に関しては修正し、他の細かい部分は私と事務局にお任せさせていただきたい。それでは、皆様から同意をいただいたということでよろしいか。

(→ 承認)

ありがとうございます。それでは、(総合計画原案, 人口ビジョン原案, 総合戦略原案の)3件認められたということで承認いただければと思う。

- 会長：総合計画のみならず、市政全体にご意見等あればお願いしたい。
- 委員：鹿嶋がこれからの10年一番力を入れるものはなにかということ、自分自身でも考えている。
- 副市長：これからの10年は鹿嶋市はどうしたらいいのか。総合計画の中にもあったように、少子化がある。さらに社会減などの問題も抱えており、人口減はどんどん進んでいる。人口が1人減ると140万円の消費に影響がでてもいわれている。日鉄高炉の1基休止が、どのくらいの人口減に影響するのかなど、いろいろな心配がある。
それをカバーするひとつが、観光産業だと思っている。観光についてはDMOが大きな役割を果たしていただけたと思う。もちろん、環境問題も大事。今回洋上風力発電も具体的に始まった。だが、内容については、市職員も十分承知しきれていない。これから勉強をしなければならない。
- 委員：どれも大事だが10年で全部叶うわけではない。優先順位をつけていかなければ、この鹿嶋の財源とマンパワーの中でどうなるのか。また、スポーツのまち、ということで、スポーツを強調しているが、スポーツに期待しすぎているのではないかとも思う。
- 会長：総合計画は少し高目狙い。選択肢を広げるという意味も込めている。今後は激動の時代なので選択肢はあった方がいい。
- 委員：前回の審議会でお話しさせていただいたが、企業誘致が大切になってくるのではないか。計画にも企業誘致の項目を入れていただいたが、KPIにも具体的な数字を落とし込んでいただきたかった。今回、錦織市長が第二の鹿島開発にしたいとお話されていたが、洋上風力発電で、具体的にどのような企業がどのような活動をされるのか、正直見えてこない。これに限った話ではないが、何か動きがないと、人口が増えないのではないか。
- 会長：KPIで企業数は出していないが、今の段階で洋上風力発電は不透明な部分が多いため、今後わかっていくことを見直し、対策をしていく。

- 委員：私も洋上風力発電が今後どうなるか一番興味がある。日本製鉄の高炉が停止することになり、その影響もどうなるかわからず、心配ばかりで実際に何をしたいのかわからない状況。その中で民間の開発が進むだろうという、かなり期待できるものが鹿嶋市にやってくる。明るい兆しが見えてきたのではないか。マスコミも鹿嶋が変わっていくことを発信していければと思う。
- 副市長：経済振興部長から洋上風力発電について、補足説明をお願いしたい。
- 経済振興部長：洋上風力発電の話が出たが、先週、洋上風力発電事業推進ビジョン策定会議の1回目があった。年内にこのビジョンを策定する方向で考えている。事業者は昨年12月に決まったばかり。その事業者とどのような形で展開するのか、これから確認していく中で、より鹿嶋にとってプラスになる事業展開を調整させていただく。運用開始が令和10年で、まだ期間があるが、早い段階でどのようなものが鹿嶋にできるのか、また関連産業としてどのようなものが考えられるのか、いろんなお知恵をいただきながら、鹿嶋市の発展につなげていきたいと考えている。
- 委員：子育て支援はかなりできておりいいのではないか。見守りなど防犯上については良い状況。また先ほど観光を中心というお話があったが、JR東日本としても観光の促進に向けて協力できればと思う。茨城や鹿嶋の魅力の掘り起こしなど、お客様に来ていただき、知ってもらおうということが一番大事なのではないか。
- 委員：雇用施策が気になった。10年間の方針という中で、雇用創出という問題が出ているが、人口減少・少子高齢化の中で、鹿嶋が魅力ある街になるためには、それぞれが生活をしていくことを基本に考えれば、既存産業への支援や事業創出、新産業創出も考えていただきたい。また、周辺自治体との連携も必要になってくると思う。
- 委員：まち・ひと・しごと創生総合戦略の14頁。観光地域づくり会社「(一社)アントラーズホームタウンDMOを支援し、市内スポーツ合宿の誘致数を増やす」とある。ここに鹿嶋市観光協会を入れていただけないか。観光協会も観光を応援している。スポーツ合宿も検討し、話し合っているので、できれば他の業者や観光協会もこの中に名前を入れていただければと思う。
- 事務局：指標に関しての説明文にとどまってしまう。表現を変更させていただきたい。観光を大きく捉え、観光協会や宿泊業者も協力してまちづくりを進めていくので、含めた表現に改めさせていただきたい。
- 委員：カラフルステージといったからには、カラフルなステージをつくっていく必要があると思うので、私も事業者として、一緒に頑張ってみていきたい。
- 委員：鹿嶋開発に次ぐ洋上風力発電の話があったが、この洋上風力発電には期待している。この計画に基づいて行政と一体となり、商工会として協力していくという考え。この計画に沿って進めていくことを期待、努力をしなくてはならない。
- 委員：鹿嶋に住友金属が進出してから53年。その間、鹿嶋市に人も仕事も一緒に育てていただいた。25年3月末までに高炉を1基止めるが、それでも1基で成り立つようにして、これからも鹿嶋市とともに歩んでいきたいと思っている。経営陣も含め、その考えに変わりはない。引き続きどうやって鹿嶋市に貢献していけるかを考えている。
人口の流出はあるかもしれないが、それを最低限に抑えつつ、企業誘致などにも連携して協力していきたい。期待するのは洋上風力発電。ヨーロッパの話だが、鄙びた田舎町が風力発電の基地に指定され、人や企業が入り、裕福なまちになったということなので、それを期待したい。いろんな分野でいろんなことが起こるたびに、この計画に立ち戻ってやっていくということ。みんなの知恵を結集してつくったので、これに沿ってやっていければと思う

- 副会長：この計画の中に、カシマスタジアムが明記されており、スタジアムを中心にまちをどのように発展させていくか、ということを入れていただいている。昨年、新スタジアム構想を発信したところ、鹿嶋市の方々へのインパクトが大きく、前回の会議でも移転先のご質問をいただいたが、カシマスタジアムはまちの象徴であるとともに、まちづくりをしていく上で重要な装置、仕掛けであることを改めて感じている。せっかくするのであれば、この地域のためになるもの、こういった機能があるものをつくれれば、まちの発展に寄与できるかということ、考えてつくらなければならない。最初から完成形のスタジアムをつくるつもりはなく、時代がスタジアムに要求するもの、時代の動きによってスタジアムは変わっていくという議論をしており、時代に合わせてどんどん機能を膨らませていったり、加えたりしていくものにしたい。この総合計画は25年後に向けて皆さんでつくってきたが、現時点でのもの。予測をしてつくったが、時代は我々が思うより早く展開していくのは間違いない。時代の要求に合わせてどうするかは時々で変わっていく。対応する柔軟性や瞬発力が行政機関には求められるのではないか。現時点で意見を言わせていただき、良いものができたと私自身感じている。
- 会長：計画はつくったが、これからが大切。対応をみながら変えていく瞬発力が大事だというお話をいただいた。皆さんより、ご意見をいただき、これで審議会は終了とさせていただきます。
- 副市長：早速、皆さんからご提案いただいた内容を実現したいと思っている。本日、来年度予算の査定を行うが、委員の皆さんにご指摘されたところは、来年度どのくらい生かされるのか、気になっている。ご指摘いただいた内容を1つでも2つでも着実に積み上げられるように努力したい。
- ご意見があったコミュニティの問題について議論が少なかったように私も思う。私は常日頃職員に、コミュニティを解体したのは行政だという話をしている。あまりにも過ぎたるサービスを提供しすぎた。コミュニティの存在意義が薄らいでいるのは事実。そのことは間違いではないが、コミュニティをなくし、統率力をなくし、議論を積み上げる手続きを行政が怠ったのではないか。先日市長から、祭頭祭の当番は大変厳しい思いをする、ただ寸前に抜けるのはみっともないので、5年前になるとボツボツ抜け始めるという状況が生まれてきているという話を聞いた。祭りは地域の力、団結力を高めると思っているが、そのような厳しい環境もあるということを知らされた。これからも皆さんにコミュニティづくりをどうしたらいいか、今後ともお知恵をお借りしたい。